

【資料3】 令和4年度重点目標の設定及び デジタル化推進員の位置づけについて

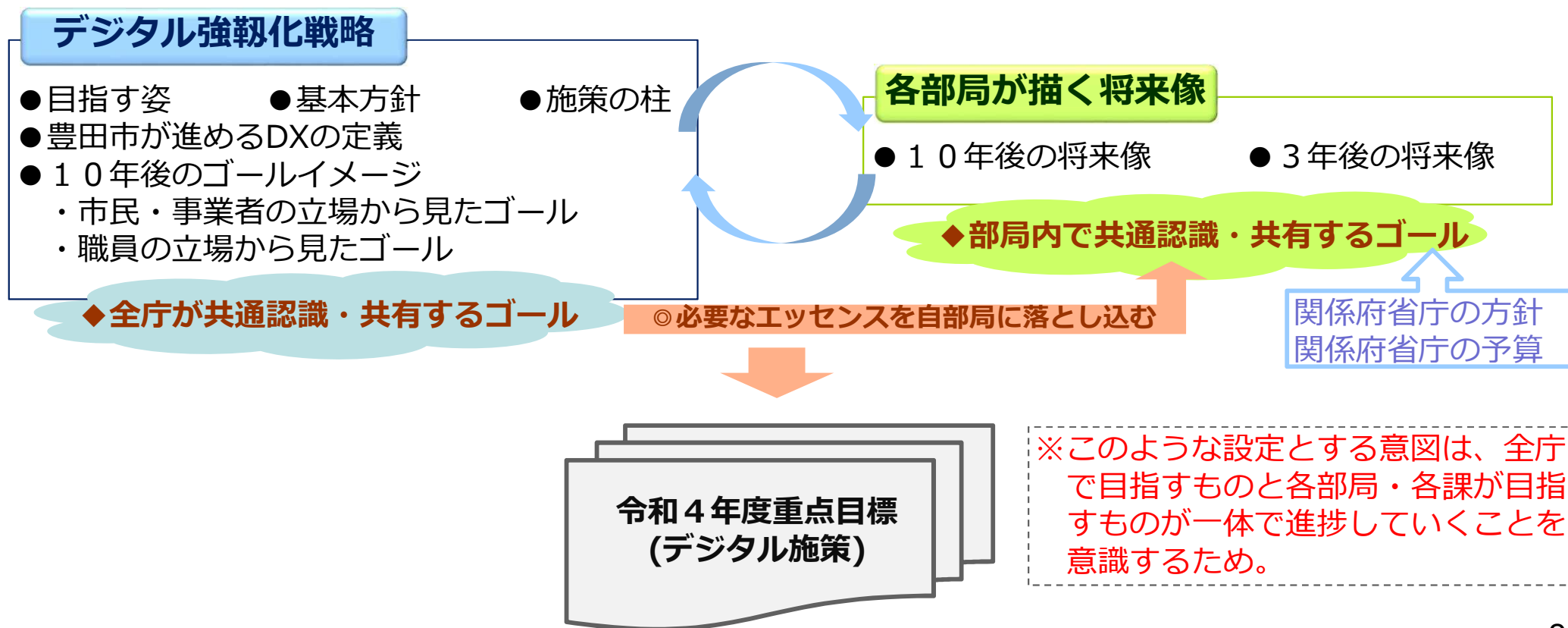
デジタル化推進本部事務局
(経営戦略部 情報戦略課)

1 令和4年度重点目標の設定について

(1) 令和3年度 of 取組と振り返り

- 令和3年度のデジタル化施策に関する重点目標は、令和3年2月に策定した「デジタル強靱化戦略」を踏まえて、各部局においてデジタル技術を活用した取組が何かできないかという依頼で重点目標の設定を行った。
- この取組において、各部局での取組については一定程度、進捗してきたものと認識している。ただ、資料2にも記載したように「DX」に対する共通認識、共感点が庁内全体で共有できていなかったことで、進む先が見えにくく、バラツキ感があつたとも認識している。
- 重点目標設定後に、令和3年度・令和4年度の取組方針、10年後及び3年後の将来像の作成などの取組を進めてきたいことで、全庁及び各部局である程度の進む先が見えてきたのではないかと。
- 令和4年度においても、重点目標にデジタル化施策を位置付ける取組は継続していくこととしたいが、これまでの取組を踏まえた設定、記載方法にしていくべきと認識している。

(2) 令和4年度の重点目標(デジタル化施策)の設定のイメージについて

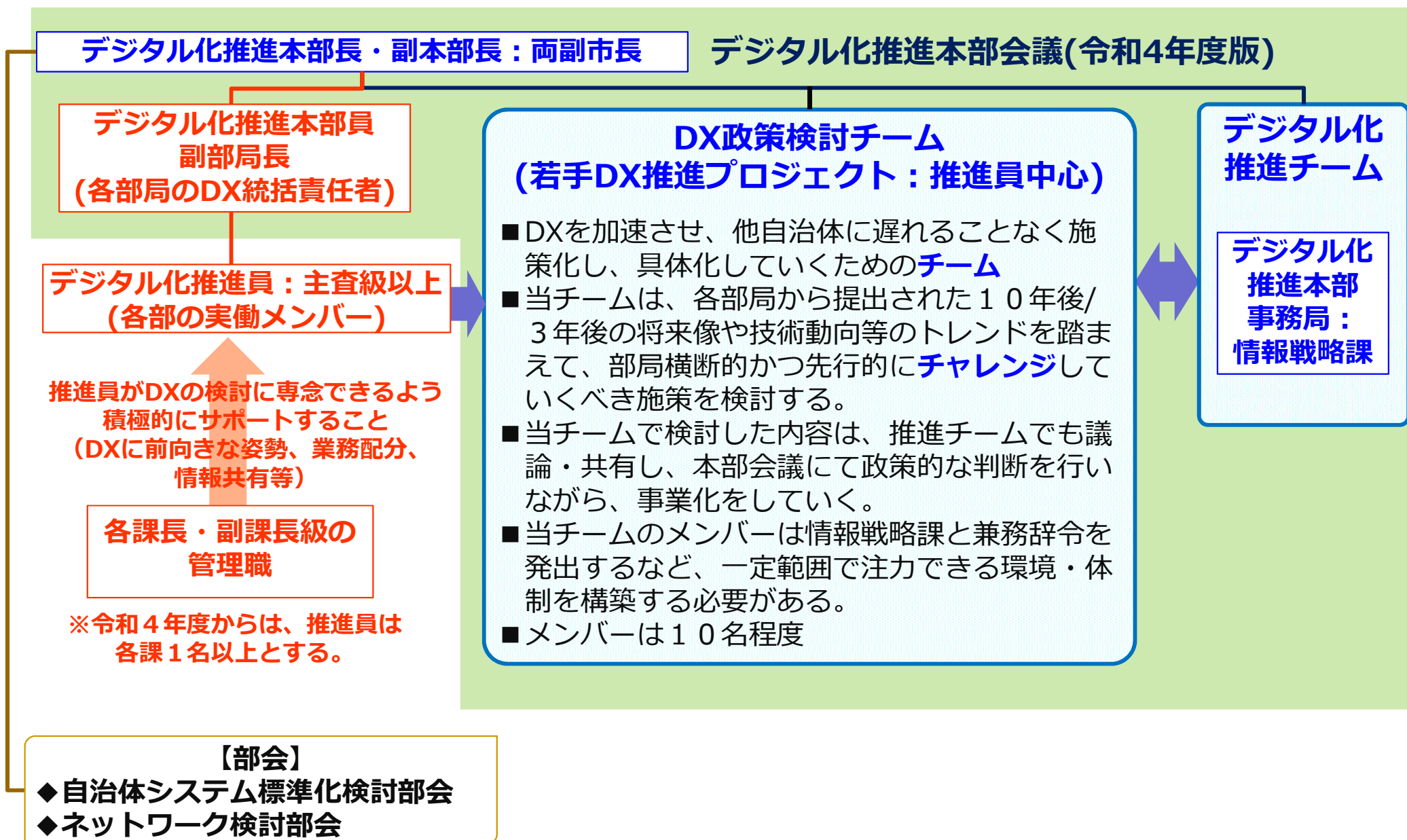


2 デジタル化推進員の位置づけについて

(1)今年度の振り返り

- 令和3年2月に策定した「デジタル強靱化戦略」に基づき、各部局に「デジタル化推進本部員(副部局長)」、各課に「デジタル化推進員」を配置。この体制で各部局・各課のデジタル化の推進を進めてきたところ。
- 各部局においては本部員を中心に部局内にデジタル化検討部会等を設置するなどの取組も進められてきている。
- また、デジタル化推進員向け研修会において、各種ツールの利活用に関する説明会を行ってきたところ、推進員を中心に課内展開等していただいた結果、利用数が増加している。
- このように、本部員及び推進員の配置によりDXに関する取組、検討は進んできたと認識している。
- 一方で、各課との意見交換、ヒアリング等から挙げられた課題として、「本部員・推進員だけではどうしても部局・課内のDXが進みづらい」、「課長や副課長が推進員をサポートする必要がある」との意見をいただいている。
- 市長からもDXは通常業務の1つの認識で、担当を明確にして取り組んでいくことと指示がある中で、次年度以降はそれが実施できるような体制にしていくことが必要であると認識している。

（2）令和4年度の体制のイメージについて



デジタル化推進本部長・副本部長：両副市長

デジタル化推進本部長：副本部長 各部署のDX統括責任者

- 各部署におけるDXのリーダーである。令和3年9月30日に実施したデジタル化推進員研修で提示した「DX成功に向けた心得」を改めて意識していただきたい。
- 国の動向、デジタル技術の動向等を踏まえ、10年後の将来像/3年後の将来像を常に更新していく意識をもっていただき、各年度において実施すべき事項を明確にしていきたい。
- また、市全体のDX推進に向けて、担当部署以外にも目を向け、全庁を俯瞰して幅広い発想や提言をいただきたい。

デジタル化推進員：主査級以上 各部の実働メンバー

※各課に配置する推進員の人数は部署内・課内での判断にお任せいたします。少なくとも各課1名は配置。

- 部署の10年後の将来像/3年後の将来像を踏まえ、各課におけるDXの推進に向けたアイデアの提案。
- 研修や各種セミナー、関係府省庁・民間企業等の動向の把握をしていただきたい。
- 特に、関係府省庁の動向(補助金や実証事業等について)については把握をしていただきたい。

積極的なサポート

各課長・副課長級の管理職

- 令和3年9月30日に実施したデジタル化推進員研修で提示した「DX成功に向けた心得」を改めて意識していただきたい。
- 国の動向、デジタル技術の動向等を踏まえ、DXに関する取組に否定的になることなく、推進員のアイデアや日頃の疑問を前向きに捉え、業務経験から、検討内容を洗練・昇華いただきたい。
- 部署の10年後の将来像/3年後の将来像を念頭に、各課で実施すべきDXの方向性やマイルストーン（いつまでに何をやるか）を明示し、それらを意識しながら、各種取組を着実に実施していただきたい。
- DXの検討は本来業務であり、課員の業務が平準化されるように、業務分担を示していただきたい。
- 特に、関係府省庁の動向(補助金や実証事業等について)を把握し、活用可能性等を意識していただくよう、アンテナを高くしていただきたい。